

## 遠ざかるファンの気持ち 岡本さん、市岡さんの言葉に

広報調査委員会委員長 福山裕治



第2回パチンコ・パチスロエッセー・絵手紙コンクールの表彰式が、6月7日の日遊協第23回通常総会で行なわれました。今年も最優秀賞に選ばれたお二人には、会場にお越しいただき貴重なご意見を頂戴いたしました。

改めて1年の活動を振り返ると、エッセー部門の岡本佳苗さんの作品では「パチンコは」人と人が繋がる身近なコミュニケーションとして、存在してくれる事を心より願っています」と言うくだりが、とても印象的でした。また、絵手紙

部門の市川哲夫さんには、若い頃のご自身の遊技体験と現在の業界イメージを見事に融合させた力強い作品にとっても興味を持ちました。

岡本佳苗さんは、インタビュアの席で「ホールで客同士がもめること、台を叩く人がつらい」とパチンコファンの気持ちを表現していただき、自称休眠ファンの市岡哲夫さんは「パチンコが進化したロボットののような機械は打てない、僕の世界ではない」と言われたことで、業界の現状を見透かされたような思いでした。「パチンコは楽しい」ということばかり自称している業界が、弱点に目を向けなければならぬ課題に直面していることを、気づかせていただいた



総会の表彰に出席した市岡さん(左)に挨拶する福山委員長。右は岡本さん

発言でした。

また、会場では今年も「東日本大震災の被災地復興支援金」に賛同していただいた関係者の方々に、この場を借りて心より御礼申し上げます。

「ありがとうございました」

コンクールという年に一回の催しによって、業界の存在意義や立ち位置を改めて確認させていただき、大事な遊技業界全体の活動に成っていると実感しています。

平成22年度に広報委員会として

開始した活動も、2年が経過しました。今年度は専門委員会の再編により、広報調査委員会として新たな課題があります。委員会のテーマはつながっていると思っています。

日遊協の広報は、組織と遊技業界の理解を深める窓口であるという役割があります。現在、流通している遊技業界のデータは「官公庁」、「業界団体」、「民間調査機関や企業」を含めて数多く存在します。代表的なものについては、こ



れまで遊技健全化委員会で進めてきた「日遊協ホール来店客アンケート調査」があります。このデータは、業界関連14団体からなるパチンコ・パチスロ産業21世紀会からの支援を受ける「NPOリカバリサポート・ネットワーク」(RSN)の2011年度ばちんこ依存問題電話相談事業報告でも、比較データとして役立っています。

当初は、広報委員会でも「調査」という新たなテーマが加わったことにより、難しさを感じていました。委員会メンバーとの議論を重ねるうちに、元々

たどると全てがつながることに気づかされました。このように業界全体での活動を把握する仕組みの構築と、各々が情報を持っている内容を集約できる仕組みを作っていくことが不可欠だと思います。

これからも日遊協が業界団体を中心に、あらゆる調査データを正確に伝える横断的な組織としての目的を果たしていきます。